

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援事業所）

○事業所名	多機能型事業所すなめり I			
○保護者評価実施期間	2025年 11月 1日		～	2025年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○従業者評価実施期間	2025年 11月 1日		～	2025年 12月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	その日の支援の内容を記録に残し、保護者にフィードバックしていること。	毎日の療育と、その都度臨機応変に行う療育とのメリハリをつけている。	個別療育を更にオーダーメイド的な要素を組み込んでいく。
2	職員同士の連携をしっかりとっていること。	個人の判断ではなく、チームで療育することを意識している。	職員が毎日入れ変わり、どの職員が対応しても同じ支援になるように共有していく。
3	音楽を取り入れた療育に力を入れていること。	ピアノの伴奏に合わせて活動を促したり、気持ちの切り替えや、集中しやすい環境を作っている。	マンネリ化しないように年間のプログラムを組んでいく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	限られたスペース。	物が増えてくること。	常に物の整理整頓をして、危険なものや使わない物は取り除いていく。
2	活動がマンネリ化しないようどの様に充実させるか。	新しいことを取り入れていくための準備や話し合いの時間の確保が難しいこと。	子どもが有益な時間が過ごせるよう、事前準備や職員間の話し合いを行う時間を設けること。
3	様々なマニュアルの内容は、お便りなどで大まかな説明はしているが、保護者全員への周知が不十分であること。	契約時に説明したり、記録で日々の訓練などのお知らせはできているが、マニュアルなどの詳細の周知は不十分であること。	マニュアルなどの詳細をメールで添付するなど、周知の方法を模索していく。